

# 全農薬通報

No.269

平成22年10月20日

\*\*\*\*\* も く じ \*\*\*\*\*

◎組合からのお知らせ

◎組合員の異動等について

◎主な行事予定

- ・全国農薬協同組合
- ・全国農薬業厚生年金基金

◎農林水産省等からのお知らせ

- ・「飼料として使用する籾米への農薬使用について」の一部改正について
- ・「農地・水・環境保全向上対策の中間評価」について
- ・農業資材審議会農薬分科会特定農薬小委員会及び中央環境審議会土壤農薬部会  
農薬小委員会特定農薬分科会第11回合同会合について

◎農薬関連ニュース

- ・科学者・軍が協力してミツバチ・ミステリー解決へ
- ・GHSとは

◎農薬工業会出荷実績表（平成22年6、7月）

◎全農薬ひろば

- ・ホトトギス



## 全国農薬協同組合

〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル  
電話 03-3254-4171 Fax.03-3256-0980  
<http://www.znouyaku.or.jp> E-mail:info@znouyaku.or.jp

### 1. 全国農薬業厚生年金基金 資産運用委員会

- ・日時：平成22年8月24日（火）、13：00～
- ・場所：全農薬9F会議室
- ・出席者：石黒理事他

### 2. 農薬用保護マスク研究会

- ・日時：平成22年8月25日（水）14：00～16：00
- ・場所：東京都台東区台東1-26-6 植調会館3階会議室
- ・議題：
  - 平成21年度の事業報告
  - 平成22年度の事業計画
  - その他
- ・出席者：宮坂技術顧問

### 3. 全国農薬業厚生年金基金 監査会

- ・日時：平成22年9月7日（火）10：30～15：00
- ・場所：埼玉県浦和市
- ・出席者：石黒理事、北濱理事、堀江参事

### 4. (財) 報農会評議員選定委員会

- ・日時：平成22年9月9日（木）13：30～15：30
- ・場所：(社) 日本植物防疫協会（駒込）3F会議室
- ・議事：
  - 第1号議案 最初の評議員の選任に関する件
  - 第2号議案 その他
- ・出席者：松木理事長

### 5. (社) 日本植物防疫協会シンポジウム

- ・・・「病虫害防除の展開方向を考える」・・・
- ・日時：平成22年9月13日（月）11：00～17：20
- ・場所：日本教育会館「一橋ホール」
- ・プログラム
  - 「第一部」：農薬開発をめぐる最新動向 三井化学アグロ株式会社 田中啓司氏
  - 「第二部」：今後求められる病虫害防除とは何か？
    - 北海道立総合研究機構農業本部中央農業試験場 田中文夫氏
    - 長野県農政部農業技術課 専門技術員 桑澤久仁厚氏

大阪府環境農林水産総合研究所 岡田清嗣氏

「第三部」：パネルディスカッションー防除を支えるインフラの現状と未来

・出席者：宮坂技術顧問、堀江参事

## ○日植防シンポジウム「病虫害防除の展開方向を考える」(概要)

(社)日本植物防疫協会(日植防)主催のシンポジウムが9月13日(月)都内千代田区の日本教育会館一橋ホールに、国、都道府県、団体、農薬メーカー等、約400名が参集して開かれた。

開会に当たり、日植防の岩本理事長は、我が国の農業は、戸別所得補償制度の水稲から畑作物へ拡大と言ったような施策を中心に、これから新たな展開方向が出てくるのではないかと考えている。また、大型経営農家中心の経営形態から多様な農業を存立させるといったような方向も出ているように伺っている。



そういった中で、私どもが直接携わる植物防疫事業は地域の高齢化が急速に進んでいる。

先頃公表された、5年毎の農業センサスの速報値においても、その高齢化の実態が浮き彫りにされており、農業生産を支える植物防疫は、防除実施主体の弱体化、病虫害の薬剤抵抗性・耐性の顕在化、進入害虫や温暖化等に起因する病虫害の発生様相の複雑・多様化など多くの困難な実態に直面しており、従来とは異なる病虫害防除対策や低コスト・省力防除技術など新たな防除方法

の確立と利用が求められている。

一方、長年にわたって生産者や防除活動を支えてきた国・都道府県など公的な指導・研究機関やJA、農業共済などの組織は弱体の一途をたどっており、防除現場での指導力を十分発揮できない実態にある。

本日のシンポジウムでは今後求められる病虫害防除とは何か、適時的確な防除活動にとって望ましいインフラ構築のために何が必要かを整理してみたいと考えている。

当協会としても、現下の課題と今後各地で顕在化する問題をタイムリーかつ組織的に拾い上げていく仕組みと、農薬登録のハードルが益々高くなる環境の中で、何らかのメカ支援策を考えていく必要がある。本日の議論を踏まえて具体化を早急に進めていきたいと考えているので、都道府県、団体などの皆様のご協力をお願いしたい。と挨拶した。



一方、シンポジウムでは、第2部では、「今後求められる病虫害防除とは何か」と題して上記講演者から講演があった。

特に現場技術者が減少している今日、濃密な技術指導が困難となってきた中であって、農薬の防除効果情報や耐性菌、抵抗性情報など、正確、速やかに生産者に伝えるシステムの早急な構築が必要との発表があった。

第3部は、パネルディスカッション「防

除を支えるインフラの現状と未来」をテーマに講演者の4氏と農水省植物防疫課防除班の黒谷博史課長補佐、農薬工業会の内田又左右衛門事務局長、全農東海・近畿肥料農薬事業所 宗和弘氏が加わり討論した。ここでも、指導機関の職員が減少し、人材育成に苦労していることが話題となった。農薬の使用に当たっては基本に忠実に他者への配慮や自己責任が益々重要となることが上げられた。

## 6. 日本植物医科学協会設立シンポジウム

- ・日時：平成22年9月14日（火）13:00～18:00
- ・場所：東京大学農学部 弥生講堂 一条ホール
- ・プログラム

開会挨拶 小栗 邦夫（農林水産省 大臣官房 技術総括審議官）

### 第1部 植物医科学が拓く未来 ～低炭素社会の実現に向けて～

特別講演：低炭素社会と植物医科学

山田 興一（JST 低炭素社会戦略センター 副センター長 東京大学 総長室顧問）

基調講演：植物医科学の目指すもの～先端臨床技術の社会実装～

難波 成任（東京大学 大学院 教授・総長特任補佐 JST 低炭素社会戦略センター 上席研究員）

### 第2部 パネルディスカッション 植物医科学を活かした新たな事業への期待

パネリスト 藤井 滋生（イオンアグリ創造株式会社 代表取締役）

(ABC 順) 猪股 敏郎（社団法人 日本技術士会 農業部会長）

石橋 良夫（千葉県柏市 経済産業部 農政課 課長）

西尾 健（法政大学 生命科学部 教授）

榊 浩行（農林水産省 大臣官房参事官）

高橋修一郎（株式会社リバネス 代表取締役）

討論会

18:00 閉会

- ・出席者：宮坂技術顧問



写真は開会に当たり挨拶する農水省小栗技術総括審議官

#### 概要

2006年に始まった「植物医科学」の新たな試みは、我が国初の本格的植物病院開設や植物医師の育成、外来侵入重要病害の発見など、数々の成果を挙げてきました。これまでの取組みは、いずれも農業生産性の向上と食の安全確保、環境保全型農業の展開に欠くことのできないものです。

具体的には、簡単、敏速、高感度で

安価な新しい植物の病気診断システムを開発した。

今回、東京大学大学院農学生命科学研究科の難波教授がスライドを用い詳しく説明した。



また、これらの成果の社会実現に向け、このたび千葉県柏市との連携のもと植物医科学の実証試験が開始されたが、今回のシンポジウムでは、植物の臨床診断技術が初めて紹介されました。また、農水省、柏市、技術士代表、法政大学、イオン等関係各界を代表するリーダーによる、植物医科学を活かした新たな事業への期待についてパネルディスカッションが行われた。

翌日は植物病診断について、易しく解説する「植物病害診断研究会」が開催され、盛会に終わった。

○パネルディスカッションの様子

## 7. 第6回執行部協議会

- ・日時：平成22年9月16日（木）10：30～12：00
- ・場所：全農薬9F会議室
- ・議題：

組織強化について

（役員改選について、役員選挙規約による役員選考のスケジュールについて等）

財務体質強化について

（早期支払による奨励条件の取得について）

IT・広報活動について

（事務局における全農薬受発注システムのIT化促進について）

- ・出席者：松木理事長、青木副理事長、鈴木常務理事、岩淵常務理事、羽隅理事相談役事務局（宮坂技術顧問、堀江参事）

## 8. 第249回理事会

- ・日時：平成22年9月16日（木）13：30～16：30
- ・場所：全農薬9F会議室
- ・議題：

「議決事項」

平成22年度決算（案）に関する件

平成23年度事業計画（案）に関する件

組合員の加入及び脱退について

賛助会員の加入について

全農薬受発注システム（事務局のIT化促進）について

早期支払による奨励条件の取得について

「協議事項」

第45回通常総会及び第33回全国集会スケジュールについて

第45回通常総会議長候補選出について

全農薬受発注システムについて

平成22年度植物防疫地区会議について

平成23年度地区会議について

永年勤続役員・支部長表彰について

組合員事業所永年勤続表彰について

役員改選（候補者選考）について

「報告事項」

各委員会報告

消費者を交えた農薬シンポジウムの開催報告（四国、近畿、北陸地区）

農薬工業会との情報交換会について

（全農薬出席者）

松木理事長、青木副理事長、鈴木常務理事、岩淵常務理事、羽隅理事相談役

他理事12名、監事3名、宮坂技術顧問、堀江参事、安孫子会計主任

## 9. 農薬工業会との情報交換会

・日時：平成22年9月16日（水）16：30～17：30

・場所：全農薬9F会議室

・出席者：農薬工業会（5名）

（大内会長、福林副会長、宮川業務G長、角田技術G長、内田事務局長）

全農薬（10名）

（松木理事長、青木副理事長、鈴木常務理事、岩淵常務理事、羽隅理事相談役、  
田中教育安全委員長、金子経済活動委員長、大森IT・広報委員長、宮坂技術顧問  
堀江参事）

・議題：

農薬工業会支部と安全協支部との情報交換について（合同研修会の開催等）

広報活動について（農薬シンポジウム開催等）

その他

## 10. 第25回報農会シンポジウム

・日時：平成22年9月17日（金）10：00～17：00

・場所：「北とびあ」つつじホール（東京都北区王子1-11-1）

・講演：「植物保護ハイビジョンー2010」—生物農薬の展開と化学農薬との調和—  
生物農薬についての最近の開発・利用状況及び今後の展望 静岡大学農学部 西東 力  
天敵を利用したIPMプログラム アリスタライフサイエンス(株) 山中 聡

水稻、園芸分野での体系使用とハイブリッド農薬の開発 クミアイ化学工業(株) 熊倉 和夫  
 天敵線虫製剤の枝幹害虫防除場面における使用事例 (株)エス・デー・エスバイオテック 田辺博司  
 微生物農薬による省力病害防除技術(果菜類/施設栽培における事例) 出光興産(株) 尾川 新一郎  
 イチゴ栽培における生物農薬導入事例(天敵利用を中心に) 神奈川県農業技術センター 小林 正伸  
 総合討論(パネルディスカッション)

・功績者表彰式

表彰

稲生 稔氏(茨城県)、岡本康博氏(岡山県)、高見澤和人氏(長野県)

・出席者:宮坂技術顧問、堀江参事



報農会の上路理事長は、開会の挨拶で、本会のシンポジウムも「第一回の植物保護ハイビジョン」から今回で25回を迎える、この間、多くの方々に多大なご支援とご協力を賜りこの場をお借りして感謝申し上げるとした上で、今回のシンポジウムは「生物農薬の展開と化学農薬との調和」をテーマに、環境保全型農業に於けるIPMの実施で期待されている生物農薬の使用についても取り上げることになりました。

生物農薬は健康や環境に対する負荷が小さいものの、対象が限定的、遅効的、効果が変動するなどの課題もあり、化学農薬と組み合わせた防除体系も導入されつつあります。本シンポジウムでは、天敵・微生物農薬など生物農薬の最近の開発・利用状況を概観し、生産現場での生物農薬の導入事例などを紹介していただき、これからの病害虫等の防除に於ける生物農薬と化学農薬の調和について展望する内容とした。と挨拶した。



そのあと、上記先生方による講演が行われ、最後にパネルディスカッションが行われた。

17時からは、場所を16階の「天覧の間」に移し、「功労者表彰式」が行われた。

来賓には農林水産省消費・安全局、福盛田植物防疫課長が出席し、祝辞を述べられた。

祝辞の全文を以下に記す。

祝辞。

農林水産省植物防疫課の福盛田です。このたび、報農会第25回功労賞を受賞された3名の方々には誠にめでたう御座います。心からお祝い申し上げます。

また、報農会の表彰事業につきましても、昭和 61 年の創設以来、本年度まで計 85 名の方々表彰をお受けになったと伺いました。着実なる事業の発展に敬意を表します。

本日受賞された 3 名の方々は、植物防疫の発展に対する長年の多大な功績が認められた方々であり、大先輩に対し甚だ僭越ではございますが、植物防疫行政に携わる後輩として、一言、お祝い申し上げます。本日受賞された稲生様、高見澤様、岡本様におかれましては、それぞれ、大学や県の農業試験研究機関、行政機関、病害虫防除所において、病害虫の予察や防除に関する試験研究や技術開発にすばらしい業績を残された方々であります。ご活躍された分野はそれぞれであります。皆さまの業績は、現在なお、植物防疫の基盤をなすものであり、心より敬意を表す次第です。私どもが携わっております植物防疫の事業は、植物検疫と病害虫防除、すなわち、海外からの病害虫侵入防止と国内に於ける病害虫のまん延・被害発生の防止が車の両輪の如く連携して、国内農業生産の安全を支えています。

その中で、植物検疫については、我が国への輸入植物の種類や輸入国が多様化し、病害虫の侵入リスクが増大しています。水際での輸入検査においては、植物防疫官が日々、病害虫の侵入防止のため取り組んでおります。私どもも、現在、病害虫のリスクに応じた検疫対象病害虫の明確化や措置の内容について検討を進めております。他方、国内の病害虫防除においては、今年は昨年比、暖冬の影響により果樹カメムシ類の注意報が多く、また、九州地域でのセジロウンカ飛来が多いという発生予察情報が出され、適期防除を呼びかけました。この伝統ある発生予察事業につきましても、約 10 年ぶりに、予察調査の対象とする病害虫の見直しや、調査・防除手法の設定の検討を進めているところです。

また、この数年は、ウイルスを媒介したり、薬剤抵抗性を獲得した微小病害虫の防除のため、様々な技術を駆使しながら技術体系を確立しようとする各地の取り組みを支援しています。

このような防除対策を進めることの出来るのは、その基礎になる一つ一つの技術の確立があってこそであります。本日受賞の栄誉に浴された 3 名の方々の業績はその礎となっております。改めてそのご功績に敬意を表します。最後になりますが、植物防疫行政に携わる者の一人としまして、これまでの皆様方の研究業績を踏まえ、今後、しっかりと取り組んで参りますことを申し上げ、甚だ措辞ではあります。お祝いの言葉とさせていただきます。

## ○祝賀会の様子

(社)日植防岩本理事長の音頭で乾杯し、稲生、岡本、高見澤氏の活躍した時代の思い出話に花が咲いた。  
受章者の皆さん（左から稲生、岡本、高見澤の各氏） (社)日植防岩本理事長の音頭で乾杯



#### 1 1. 全国農業厚生年金基金第54回理事会、第42回代議員会合同会議

- ・日時：平成22年9月24日（金）、午前11時～14時30分
- ・場所：全農薬9F会議室

#### 1 2. 第73回植物防疫研修会

- ・日時：平成22年9月27日（月）～平成22年10月1日（金）
- ・場所：（社）日本植物防疫協会牛久研究所
- ・全農薬組合員から30名が受講

#### 1 3. (財) 報農会臨時評議員会

- ・日時：平成22年10月14日（木）13:00～15:00
- ・場所：（社）日本植物防疫協会（駒込）3F会議室
- ・議事：
  - 第1号議案 新制度に伴う新法人に移行した際の理事選任に関する件
  - 第2号議案 新制度に伴う新法人に移行した際の監事選任に関する件
  - 第3号議案 その他
- ・出席者：堀江参事

#### 1 4. 第11回IETセミナー

「土壌中残留農薬等の後作物への移行性の解明に向けて」

- ・日時：平成22年10月15日（金）14:00～17:50
- ・場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）



#### 写真は挨拶する加藤理事

- ・講演：  
「残留性有機汚染物質の植物による吸収及び蓄積機構の解明」  
神戸大学自然科学系先端融合環 遺伝子実験センター講師  
乾 秀之 氏
- 「土壌中残留農薬の後作物移行に関する実態」  
社団法人日本植物防疫協会 理事 藤田 俊一 氏
- ・発表：

「数種幼植物における[14C]ヘプタクロルの吸収、移行および代謝」

化学部 代謝第2研究室 主任 林 靖 氏

「後作物移行性試験に関する世界的動向」

化学部 残留第2研究室 室長 飯島 和昭 氏

- ・参加者：宮坂技術顧問、堀江参事

#### 概要

講演で、神戸大学自然科学系先端融合環 遺伝子実験センター講師 乾 秀之氏は、ズッキーニによる

ダイオキシン類の吸収・蓄積メカニズムの解明について、



①ズッキーニは、高脂溶性汚染物質をその地上部に高濃度で蓄積することが出来ることから特異的なメカニズムを有している。

②ダイオキシン高吸収ズッキーニ品種はオルト位置換PCBを効率よく吸収・蓄積した。また、土壌からの脱離・可溶化、根から地上部への移行の段階において特異的なメカニズムを有していることが判明した。③特異的なメカニズムの一つとしては、根におけるカスパー線が重要な役割を果たしていることが示唆された。

これらのことから、このような、残留性有機汚染物質（POPs）の吸収・蓄積メカニズムの解明は、効率のよいファイトレメディエーション法野開発や残留性有機汚染物質（POPs）の吸収抑制技術開発につながる結論した。

（参考）ファイトレメディエーションとは、植物やその根圏に共生的に存在する微生物群によって土壌中の汚染物質（重金属・有機塩素系化合物・芳香族有機化合物など）を除去したり、分解することによって土壌汚染を浄化するプロセスです。

また、2番目の講演は、「土壌中残留農薬の後作物移行に関する実態」と題して、社団法人日本植物防疫協会理事の藤田 俊一氏が講演し、今問題になっている農薬の後作物への移行しやすい農薬として、

①水溶性が高い農薬は、土壌水を介して後作物に吸収移行しやすい。②水溶性が低くとも、成分投下量が多い、土壌中での消失速度が遅い、脱着されやすい等により、土壌水中に継続的に溶存していく場合は後作物に球種移行されやすい。また、土壌中濃度が高く（例：土壌処理）、長期間にわたって持続する（例：粒剤、徐放剤）製剤・施用法の場合は、それ以外の場合よりも後作物に吸収されやすいとの報告があった。

その他、残留農薬研究所の研究者から、「数種幼植物におけるヘプタクロルの吸収、移行及び代謝」について「後作物移行性試験に関する世界的動向」について発表があった。

## 15. 平成22年度第3回役員選考準備委員会

- ・日時：平成22年10月19日（火）午前10時30分～11時45分
- ・場所：全農薬9F会議室
- ・議題：総会における役員改選の進め方について等
- ・出席者：

役員選考準備委員会：鈴木委員長、武田委員、石黒委員、宇野委員、金子（邦）委員  
事務局（堀江参事）

## 組合員の異動等について

### ○ 農薬卸売業者団体代表者変更

「福島県」

・団体名：福島県農薬卸商業協同組合

・旧理事長 門垣英夫（関菱化学株式会社社長）⇒新理事長 岩下 進（関菱化学株式会社社長）

### ○ 安全協幹事変更

「千葉県」

旧幹事：栗原美津雄 岩淵農薬(株) ⇒ 新幹事：小川利夫 岩淵農薬(株)

〒285-0815佐倉市城535

電話043-485-2345

FAX043-485-2661

「富山県」

旧幹事：木林延嘉（株）山正富山営業所 ⇒ 新幹事：小寺一也（株）石沢商事

〒939-0132高岡市福岡町大滝330

電話0766-64-3011

FAX0766-64-5575

「静岡県」

旧幹事：小川敏弘（株）松田屋 ⇒ 新幹事：鷲坂祐志（有）サギサカ

〒424-0047静岡市清水区鶴舞町4-36

電話0543-64-1131

FAX0543-61-0335

「和歌山県」

旧幹事：垣本祥吾 日本農事(株) ⇒ 谷口文崇（株）橋爪

〒649-0164海南市下津町上914

電話 073-492-1231

FAX 073-492-4060

「徳島県」

旧幹事：森新一（株）ヨシミ ⇒ 阿部一郎 三協商事(株)

〒770-0941徳島市万代町5-8

電話088-653-5131

FAX088-652-6516

「香川県」

旧幹事：香川智（株）喜多猿八 ⇒ 新幹事：藤川司 三和機械(株)

〒768-0067観音寺市坂本町5-4-7

電話0875-25-4655

FAX0875-23-1918

「熊本県」

旧幹事：酒井浩美（株）九州日紅 ⇒ 新幹事：牧辰一郎 ヒノマル(株)熊本支店

〒862-8660熊本市九品寺5-7-29

電話096-372-5110

FAX096-364-1755

○組合員代表者変更

・組合員名：小浦産業株式会社

・旧：小浦梅三郎 ⇒ 新：小浦市郎 平成22年8月1日付け

○社名変更

旧：宮崎温仙堂商店 ⇒ 新：(株)温仙堂(福岡、佐賀、長崎、熊本、大分安達、宮崎)

○組合脱退

「奈良県」：堀本商事(株)

○組合加入

・(株)温仙堂さつま川内営業所

〒895-0032 薩摩川内市山之口町 4667

電話 0996-22-3013 FAX0966-20-7512

主 な 行 事 予 定

【全国農業協同組合】

平成22年10月26日(火)・・・全農薬監査

11月16日(火)・・・第250回理事会

11月17日(水)・・・第251回理事会

第45回総会・第33回安全協全国集会

(於：千代田区平河町「海運クラブ」)

12月9日(木)・・・第252回理事会

◎平成23年度地区会議日程表

| 地 区   | 月 日      | 時 間         | 場 所   |           |
|-------|----------|-------------|-------|-----------|
|       |          |             | 開 催 地 | 会 場       |
| 九 州   | 2月2日(水)  | 11:00～17:00 | 福岡市   | 福岡ガーデンパレス |
| 中国・四国 | 2月3日(木)  | 10:30～16:45 | 丸亀市   | オークラホテル丸亀 |
| 東 海   | 2月8日(火)  | 11:00～17:00 | 名古屋   | メルパルク名古屋  |
| 近 畿   | 2月9日(水)  | 10:30～16:30 | 大阪市   | 大阪ガーデンパレス |
| 北 陸   | 2月10日(木) | 11:00～16:45 | 金沢市   | 石川県農業共済会館 |
| 東 北   | 2月15日(火) | 11:30～17:00 | 仙台市   | 仙台ガーデンパレス |
| 関東甲信越 | 2月16日(水) | 11:00～17:00 | 東京都   | メルパルク東京   |
| 北 海 道 | 2月24日(木) | 10:00～16:30 | 札幌市   | 札幌総合卸センター |

全国農業厚生年金基金]

平成22年11月16日(火)

代議委員会及び理事会(11:00~14:00)

◎平成22年度植物防疫地区協議会日程表

| 地区名    | 開催地   | 開催日程及び会場              |                     | 出席予定者                 |
|--------|-------|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 北海道・東北 | 青森市   | 平成22年11月11日(木)~12日(金) | ウエーディングプラザアスカ       | 池田晃司                  |
| 関東     | さいたま市 | 平成22年11月26日(金)        | 関東農政局共用<br>501会議室   | 栗原秀樹・羽隅弘治<br>事務局 宮坂初男 |
| 北陸     | 金沢市   | 平成22年11月18日(木)~19日(金) | 石川県広坂庁舎<br>生涯学習センター | 上田修志                  |
| 東海・近畿  | 名古屋市  | 平成22年11月9日(火)~10日(水)  | 桜華会館会議室             | 青木邦夫                  |
| 中国・四国  | 松山市   | 平成22年11月16日(火)~17日(水) | 愛媛県農業共済組合会議室        | 金井謙一                  |
| 九州・沖縄  | 宮崎市   | 平成22年11月11日(木)~12日(金) | ホテルニューウェルシティ宮崎      | 小八重 洋                 |

開催場所住所等

- 北海道・東北地区 〒030-0801 青森市新町1-11-22  
ウエディングプラザ アスカ  
Tel 017(723)2233 Fax 017(723)2361
- 関東地区 〒330-9722 さいたま市中央区新都心 2-1  
さいたま新都心合同庁舎 2号館 5F 共用501  
TEL048-600-0600
- 北陸地区 〒920-0962 金沢市広阪 2-1-1  
石川県広坂庁舎生涯学習センター  
TEL 076-223-9571
- 東海・近畿地区 〒460-0001 名古屋市中区三の丸 1-7-2  
桜華会館  
TEL 052-201-8076 (代表)
- 中国・四国地区 〒790-0002 松山市二番町 4丁目 4番 2  
愛媛県農業共済組合連合会  
TEL:089(941)8135(代表)
- 九州・沖縄地区 〒880-0879 宮崎市宮崎駅東1丁目2番8号  
ホテルニューウェルシティ宮崎  
TEL : 0985 (23) 3311 FAX : 0985 (25) 1262

## 農水省等行政からのお知らせ

### ◎「飼料として使用する粳米への農薬使用について」の一部改正について



22消安第5109号  
22生畜第1165号  
平成22年9月7日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省  
消費・安全局  
農産安全管理課長  
畜水産安全管理課長  
生産局  
農業生産支援課長  
畜産部畜産振興課長

「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」の一部改正について

現在、飼料用米中の残留農薬については、「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知。以下「課長通知」という。）に基づき、その低減化のための措置を講ずることによって安全の確保を図っているところです。

今般、粳米への農薬残留に係る新たな知見が得られた下記に掲げる農薬成分については、当該措置を要しないと判断したので、今後これらについては当該措置を求めないこととし、別添の通り課長通知を改正することとしました。これについて、貴局管内の各県及び関係機関に貴職から通知願うとともに、農家等関係者に対し周知、指導の徹底をお願いします。

また、併せて、農林水産省において作成している「多収米栽培マニュアル」を改訂し記載することとしているので、御了知願います。

今後とも関係者と連携し粳米の農薬残留に係る知見を収集し、必要なデータが得られれば、適宜、本措置の見直しを行うこととしているので申し添えます。

記

課長通知の措置を要しない農薬成分

BPMC、(フェノブカルブ)、DEP (トリクロロホン)、アジムスルフロン、アゾキシストロビン、イソプロチオラン、エチプロール、カルフェントラゾンエチル、シハロホップブチル、チアメトキサム、チオファネートメチル、ヒドロキシイソキサゾール、フェリムゾン、ブプロフェジン、フラメトピル、フルセトスルフロン、フルトラニル、プロベナゾール

なお、当該成分を含む剤は別紙のとおりであるので参照願います。

○殺虫剤

BPMC 乳剤  
BPMC 粉剤  
DEP 乳剤  
DEP 粉剤  
エチプロール水和剤  
エチプロール粉剤  
エチプロール粒剤  
チアメトキサム水和剤  
ブプロフェジン水和剤  
ブプロフェジン粉剤  
ブプロフェジン粒剤  
ブプロフェジン・BPMC 粉剤

○殺菌剤

アゾキシストロビン水和剤  
アゾキシストロビン粉剤  
イソプロチオラン水和剤  
イソプロチオラン乳剤  
イソプロチオラン粉剤  
チオファネートメチル水和剤  
チオファネートメチル粉剤  
ヒドロキシイソキサゾール液剤  
フェリムゾン水和剤  
プロベナゾール粉粒剤  
プロベナゾール粒剤  
フラメトピル水和剤  
フラメトピル粉剤  
フラメトピル粒剤  
フラメトピル・プロベナゾール粒剤  
フルトラニル水和剤  
フルトラニル乳剤  
フルトラニル粒剤

○殺虫殺菌剤

エチプロール・イソプロチオラン粒剤  
チアメトキサム・アゾキシストロビン水和剤  
ブプロフェジン・BPMC・イソプロチオラン粉剤  
ブプロフェジン・BPMC・フルトラニル粉剤

○除草剤

アジムスルフロン・カルフェントラゾンエチル・フルセトスルフロン粒剤  
カルフェントラゾンエチル・フルセトスルフロン水和剤  
カルフェントラゾンエチル・フルセトスルフロン粒剤  
シハロホップブチル乳剤  
シハロホップブチル粒剤  
フルセトスルフロン水和剤  
フルセトスルフロン粒剤

以上

## ◎「農地・水・環境保全向上対策の中間評価」について

平成 22 年 9 月 13 日

農 林 水 産 省

農林水産省は、「農地・水・環境保全向上対策の中間評価」を取りまとめましたので公表します。

### 1.中間評価について

農地・水・環境保全向上対策については、平成 22 年 3 月に閣議決定された新たな「食料・農業・農村基本計画」において、今年度、中間評価を実施し、共同活動の強化や環境保全型農業の推進等を図る観点から、これまでの実績や現場の意見を踏まえ、効果と課題を明確化するとされていたところです。

このような中、本対策に係る第三者委員会での議論を経て、今般、「農地・水・環境保全向上対策の中間評価」を取りまとめましたので公表いたします。

### 2.中間評価の概要

中間評価の主なポイントは以下のとおりです。

共同活動支援は、水田地域を中心に全国的に相当な広がり(143 万 ha)を持って取り組まれている。一方、営農活動支援は、共同活動支援の取組面積の 5%にとどまっている。

本対策の効果として、それぞれの地域において、確実に資源の保全活動や環境にやさしい農業の取組が行われているとともに、農村協働力の向上など農村地域の活性化にも寄与。

老朽化が進むほ場周りの農業用排水路等の長寿命化に向けた取組の強化や環境にやさしい農業の取組の更なる拡大などが、今後の課題。なお、「農地・水・環境保全向上対策の中間評価」の詳しい内容は添付資料のとおりです。

また、本対策に係る資料等については、下記 URL にてご覧いただけます。

[http://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/nouti\\_mizu/index.html](http://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/nouti_mizu/index.html)

<添付資料>

[農地・水・環境保全向上対策の中間評価のポイント\(PDF:691KB\)](#)

[農地・水・環境保全向上対策の中間評価\(PDF:1,092KB\)](#)

### — お問い合わせ先 —

農村振興局整備部農地資源課農地・水・環境保全対策室

担当者:企画班 川合、高阪

代表:03-3502-8111(内線 5618)

ダイヤルイン:03-6744-2447

## ◎ 農業資材審議会農薬分科会特定農薬小委員会及び中央環境審議会土壌農薬部会農薬小委員会特定農薬分科会第11回合同会合について

農水省・環境省は1月5日(火)13時から合同で標記委員会を農水省第2特別会議室で開催した。

議題は、①特定防除資材(特定農薬)の指定に係る今後の進め方について、②特定防除資材(特定農薬)の指定に向けた具体的な資材の検討、③その他についてであり、今回審査された特定防除資材は①焼酎 ②電解次亜塩素酸水 ③木酢液 ④ウエスタン・レッド・シーダー蒸留抽出液についてである。

今回の合同委員会は、キュウリや、トマト、リンゴ等のアブラムシやカイガラムシなどに100倍で使用実績があり、かつ薬害のない「焼酎」を指定する方向で決定した。

その他の電解次亜塩素酸水、木酢液、ウエスタン・レッド・シーダー蒸留抽出液は安全上のデータ不足等の理由で結論を次回委員会に先送りされた。

指定する方向で決定された焼酎については、これまでの検討では十分な薬効が確認できなかったため審議が中断されていたが、去年の「評価指針」改定により、生産現場で防除目的の使用実態が確認された食品等は薬効を省略できるようになったため、今回、再審議された物である。

今後のスケジュールは、内閣府の食品安全委員会にかけた上、特定防除資材として指定される予定である。

## 農薬関連ニュース

### 海外ニュース

#### ◎ 科学者・軍が協力してミツバチ・ミステリー解決へ

##### 概要

2006年以降、世界の農業に被害を与えた「蜂群崩壊症候群(CCD)」の解明に光明が見えてきた。米国のモンタナ大学。米軍の研究者らが、インターネット科学誌「PLoS ONE」に掲載された研究報告の中で、ありふれた微孢子虫類とこれまで知られていなかったウイルスによってミツバチの大量死が引き起こされた可能性が明らかにされた。



写真：ニューヨーク・タイムスより

モンタナ大学のコリン・ヘンダーソン氏とジェリー・プロメンシェンク氏によると、無脊椎動物に感染するイリドウイルスが、ノセマ属の微胞子虫類と協力してミツバチに作用することで、ミツバチを死に至らしめる可能性があるという。

蜂群崩壊症候群(CCD)は、2006年に初めて確認され、感染するとミツバチの巣が全滅する。

米国農務省によると、米国では毎年約150億ドル相当の農作物でミツバチを使用した受粉が行われており、科学者らは、ウイルスや真菌が大量死の原因ではないかと考えていた。

ミツバチの大量死は、少なくとも全米35州で報告されており、欧州やアジア、南米でも確認されている。米国農務省の調査では、2006年以降、毎年約26～36%の巣で大量死が発生している。蜂群崩壊症候群(CCD)に感染すると蜂の大群が巣に帰還せず、巣箱が空になる。

コリン・ヘンダーソン氏とジェリー・プロメンシェンク氏は、CCDが発生した当初から原因究明に着手し、既知の微胞子虫類の他にIIV6という疑わしい未知のウイルスを発見する。

「この二つの組み合わせは、最初の感染が確認されたミツバチ群のほぼ100%に見られた。」とヘンダーソン氏は言う。

2度目の大量死が発生したときにも死んだミツバチを調べ、ウイルスと微胞子虫類の存在を確認した。

その後、モンタナ大学で飼育していたミツバチの蜂群に感染が見られたことで、病気の発生から死までの全容が初めて明らかになった。

予期せぬウイルス発見のヒントとなったのは、生物兵器によるヒトの疾患を調べていた米国国防総省の研究だった。

米国国防総省では、研究のためミツバチから取り出されたタンパク質鎖の中に、ウイルスに感染したミツバチのものも含まれている可能性があった。

ヘンダーソン氏らは、米国立科学財団の膨大な既知タンパク質のデータ・ベースをあたり、蛾にはよく見られるものの、ミツバチでは存在が知られていなかったウイルスIIV6を発見した。

この発見を受け、科学者らは実験室での研究を開始した。微胞子虫類かウイルスの一方のみに感染させたミツバチではCCDのような大量死は見られなかったが、その両方に感染させたミツバチでは、CCDと類似の結果が得られた。

今後は、屋外での実験で検証していく必要があるが、ヘンダーソン氏は、原因の約8割は解明されたものと言う。(M)

#### (参考)

「蜂群崩壊症候群(CCD)」の原因には、「疫病説(イスラエル急性麻痺ウイルス(IAPV)など)」、「栄養失調説」、「ネオニコチノイドなどの農薬説」、「電磁波説」「害虫予防のための遺伝子組み換え農作物説」、「ミツバチへの過労働・環境の変化によるストレス説」などが唱えられていた。

あくまでも概要の仮訳なので詳細は以下のアドレスから論文をご覧ください。

<http://www.plosone.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.pone.0013181>

## ◎ GHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム) について

GHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム) とは  
Global Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals

全国農薬協同組合事務局

私たちは、生活の色々な場面で化学物質を使用しています。化学物質は私たちの生活の利便性を高めてくれますが、その性質によっては、危険性や有害性があり、取り扱うにあたって注意を要する場合があります。

いくつかの国では、ラベル表示や安全データシートで、様々な化学物質の危険有害性（ハザード）や取扱上の注意事項等の情報を化学物質を取り扱う人たちに伝える手続きやルールがありますが、その内容は各国において様々で相違点が大きく、同じ化学物質であるのに異なる情報を表示している場合があります。

一方、そのような手続きやルールを持っていない国も多いのが実情です。化学物質が世界的に流通しているなか、このように国によって表示内容が異なれば、化学物質を安全に製造、使用、輸送、処理、廃棄することが困難となるのは明らかです。

このような観点から、国際的に調和された化学物質の分類及び表示方法が必要であると認識されるようになり、長年の検討を経て、まとまったのが、GHS：化学品の分類および表示に関する世界調和システム(The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals)です。

日本では、2006年12月に労働安全衛生法にGHS制度を導入する改正が行われました。しかし、労働安全衛生法で絵表示が義務づけられるのは93物質、MSDS(化学物質等安全データシート)の作成義務は634物質と限定されています。全ての化学物質を対象とする国連勧告での制度とは異なっています。日本政府は法規制対象の約1500物質の分類作業を進めています。

## ○ GHS制度の導入は、市民生活の安全・安心を支えるための情報提供。

日本の化学物質管理制度は、使用目的や用途によって管理官庁が分けられ、それぞれ省庁ごとに個別の法律制度が作られています。化学物質の安全性を総合的に管理するための統一した制度とはなっていません。消費者向け製品の表示制度は法制度によってばらばらで、使用されている化学物質の種類や量の表示、安全性評価などは義務付けられていません。GHS制度の導入は、化学品の危険から被害を予防するために、消費者が安全なものを選ぶ判断材料を提供します。また、製造者に対し、より安全な化学物質の使用、製品の開発を促すこととなります。

以上のような理由から、我が国においても、2011年1月からこの表示制度を導入しようとしております。農薬の個々のラベル等には表示されませんが、有効成分、キャリアー（増量剤等）に、これらの表示する物質がありますと、流通段階の容器等に以下のマークが表示されます。



可燃性/引火性ガス、引火性エアゾール  
引火性液体、可燃性固体  
自己反応性化学品、自然発火性液体  
自然発火性固体、自己発熱性化学品  
水反応可燃性化学品、有機過酸化物



火薬類、自己反応性化学品  
有機過酸化物



高圧ガス



急性毒性(高毒性)



呼吸器感受性、生殖細胞変異原性  
発がん性、生殖毒性  
特定の臓器/全身毒性(半回暴露)  
特定の臓器/全身毒性(反復暴露)  
吸引性呼吸器有害性



急性毒性(低毒性)、皮膚刺激性  
眼刺激性、皮膚感受性  
気道刺激性、麻酔作用



水生環境有害性



金属腐食性物質、皮膚腐食性  
眼に対する重篤な損傷性



支燃性/酸化性ガス  
酸化性液体、酸化性固体

◎ 平成22年度農薬工業会出荷実績表(6・7月)

平成22農薬年度6月末出荷実績表(暫定)

6月出荷累計では数量156.7千トン(前年度比+11.6千トン、93.1%)、金額2,786億円(前年度比+77.6億円、97.3%)であった。  
 使用分野別では、数量では水稲は-6.2%、果樹は-8.9%、野菜畑作は-5.6%、その他は+14.4%、分類ナンシは-3.4%であった。金額では水稲は-0.4%、果樹は-7.5%、野菜畑作は-2.2%、その他は-4.8%、分類ナンシは-4.3%であった。  
 種類別で見ると、数量では殺虫剤は-8.0%、殺菌剤は-5.9%、混合剤は-2.8%、除草剤は-7.9%、植物剤は-2.6%であった。金額では殺虫剤は-4.4%、殺菌剤は-1.7%、混合剤は-0.4%、除草剤は-2.5%、植物剤は-0.5%であった。

|     | 【数量】     |         |          |         | 【金額】     |       |          |         | 単位:千t     |           | 単位:100万円  |           |
|-----|----------|---------|----------|---------|----------|-------|----------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|     | 平成21農薬年度 |         | 平成22農薬年度 |         | 平成21農薬年度 |       | 平成22農薬年度 |         | 前年<br>同月分 | 前年<br>同月分 | 前年<br>同月分 | 前年<br>同月分 |
|     | 10~9月    | 6月末     | 10~9月    | 6月末     | 10~9月    | 6月末   | 10~9月    | 6月末     |           |           |           |           |
| 水   | 殺虫剤      | 16,119  | 11,837   | 10,262  | 1,102    | 86.7  | 殺虫剤      | 14,360  | 10,768    | 9,302     | 917       | 86.4      |
|     | 殺菌剤      | 9,813   | 7,618    | 7,132   | 357      | 93.6  | 殺菌剤      | 12,275  | 9,676     | 9,483     | 934       | 98.0      |
|     | 殺虫殺菌剤    | 18,036  | 15,001   | 14,062  | 826      | 93.7  | 殺虫殺菌剤    | 31,404  | 27,724    | 26,994    | 1,162     | 97.4      |
| 稲   | 除草剤      | 31,950  | 30,352   | 29,325  | 2,026    | 96.6  | 除草剤      | 61,638  | 59,571    | 61,554    | 3,045     | 103.3     |
|     | 小計       | 75,918  | 64,808   | 60,782  | 4,812    | 93.8  | 小計       | 119,677 | 107,738   | 107,333   | 6,048     | 99.6      |
| 果   | 殺虫剤      | 9,476   | 8,724    | 7,976   | 357      | 91.4  | 殺虫剤      | 23,883  | 20,344    | 19,018    | 1,469     | 93.5      |
|     | 殺菌剤      | 7,267   | 6,506    | 5,973   | 280      | 91.8  | 殺菌剤      | 19,969  | 17,552    | 16,490    | 765       | 93.9      |
|     | 殺虫殺菌剤    | 37      | 33       | 238     | 39       | 721.2 | 殺虫殺菌剤    | 45      | 39        | 234       | 38        | 600.0     |
| 樹   | 除草剤      | 3,925   | 3,440    | 2,855   | 179      | 83.0  | 除草剤      | 9,936   | 8,772     | 7,473     | 429       | 85.2      |
|     | 小計       | 20,705  | 18,703   | 17,041  | 856      | 91.1  | 小計       | 53,833  | 46,706    | 43,215    | 2,700     | 92.5      |
| 野菜  | 殺虫剤      | 47,521  | 36,647   | 34,508  | 3,135    | 94.2  | 殺虫剤      | 56,172  | 44,170    | 43,476    | 3,996     | 98.4      |
| ・畑  | 殺菌剤      | 25,262  | 18,434   | 17,510  | 1,372    | 95.0  | 殺菌剤      | 38,534  | 30,983    | 31,422    | 1,989     | 101.4     |
| 作   | 殺虫殺菌剤    | 2,238   | 1,756    | 2,085   | 382      | 118.7 | 殺虫殺菌剤    | 1,862   | 1,498     | 1,725     | 296       | 115.2     |
|     | 除草剤      | 12,255  | 9,433    | 8,423   | 896      | 89.3  | 除草剤      | 21,395  | 18,365    | 16,256    | 1,354     | 88.5      |
|     | 小計       | 87,276  | 66,270   | 62,526  | 5,784    | 94.4  | 小計       | 117,963 | 95,016    | 92,879    | 7,636     | 97.8      |
| その他 | 殺虫剤      | 3,314   | 2,665    | 2,320   | 312      | 87.1  | 殺虫剤      | 6,036   | 4,924     | 4,881     | 692       | 99.1      |
|     | 殺菌剤      | 923     | 635      | 610     | 95       | 96.1  | 殺菌剤      | 5,305   | 3,437     | 3,203     | 636       | 93.2      |
|     | 殺虫殺菌剤    | 1,732   | 1,423    | 1,325   | 123      | 93.1  | 殺虫殺菌剤    | 797     | 644       | 828       | 88        | 128.6     |
|     | 除草剤      | 11,205  | 8,962    | 7,464   | 718      | 83.3  | 除草剤      | 22,488  | 18,148    | 16,935    | 1,813     | 93.3      |
|     | 小計       | 17,174  | 13,685   | 11,718  | 1,249    | 85.6  | 小計       | 34,626  | 27,153    | 25,847    | 3,230     | 95.2      |
| 中   | 殺虫剤      | 76,430  | 59,873   | 55,066  | 4,906    | 92.0  | 殺虫剤      | 100,451 | 80,206    | 76,877    | 7,074     | 95.6      |
|     | 殺菌剤      | 43,265  | 33,193   | 31,225  | 2,604    | 94.1  | 殺菌剤      | 76,083  | 61,648    | 60,598    | 4,324     | 98.3      |
|     | 殺虫殺菌剤    | 22,043  | 18,213   | 17,710  | 1,370    | 97.2  | 殺虫殺菌剤    | 34,108  | 29,905    | 29,781    | 1,574     | 99.6      |
| 計   | 除草剤      | 59,335  | 52,187   | 48,067  | 3,819    | 92.1  | 除草剤      | 115,457 | 104,856   | 102,218   | 6,641     | 97.5      |
|     | 小計       | 201,073 | 163,466  | 152,068 | 12,700   | 93.0  | 小計       | 326,099 | 276,613   | 269,274   | 19,614    | 97.3      |
| 分類  | 植物調整剤    | 1,865   | 1,627    | 1,585   | 105      | 97.4  | 植物調整剤    | 6,877   | 6,025     | 5,993     | 599       | 99.5      |
| ナシ  | 殺菌剤      | 27      | 25       | 26      | 0        | 104.0 | 殺菌剤      | 29      | 26        | 32        | 0         | 123.1     |
|     | 補助剤      | 3,727   | 3,090    | 2,967   | 326      | 96.0  | 補助剤      | 3,067   | 2,403     | 2,411     | 301       | 100.3     |
|     | その他      | 45      | 40       | 40      | 4        | 100.0 | その他      | 1,349   | 1,266     | 866       | 464       | 68.4      |
|     | 小計       | 5,664   | 4,782    | 4,619   | 434      | 96.6  | 小計       | 11,322  | 9,720     | 9,302     | 1,364     | 95.7      |
|     | 合計       | 206,737 | 168,248  | 156,687 | 13,134   | 93.1  | 合計       | 337,421 | 286,333   | 278,577   | 20,978    | 97.3      |

\*その他:非農薬地・林野・芝・ゴルフ場・家庭園芸 分類ナンシ:使用分野の分類をしないもの 分類ナンシのその他:生物農薬等  
 \*金額は各農薬を代表する規格単価を用いて算出したものです。原則として10、11月は前年度代表規格単価を、12月以降は当年度代表規格単価を用いて算出しています。

平成22農薬年度7月末出荷実績表(暫定)

7月出荷累計では数量172.8千トン(前年度比-9.4千トン、94.9%)、金額3,015億円(前年度比-29.5億円、99.0%)であった。使用分野別で見ると、数量では水稲は-2.6%、果樹は-9.1%、野菜畑作は-5.2%、その他は-13.1%、分類ナシは-0.3%であった。金額では水稲は+3.5%、果樹は-7.8%、野菜畑作は-1.6%、その他は-3.9%、分類ナシは-3.0%であった。種類別で見ると、数量では殺虫剤は-5.4%、殺菌剤は-4.8%、殺菌剤は-1.2%、除草剤は-7.0%、植物調整剤は+3.1%であった。金額では殺虫剤は+3.1%であった。金額では殺菌剤は+1.6%、除草剤は+1.6%、殺菌剤は-1.9%、殺菌剤は+0.7%であった。

|       | 【数量】     |         |          |         | 【金額】     |         |          |         | 前年<br>同期比 |       |
|-------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|-----------|-------|
|       | 平成21農薬年度 |         | 平成22農薬年度 |         | 平成21農薬年度 |         | 平成22農薬年度 |         |           |       |
|       | 10~9月    | 7月末     | 10~9月    | 7月末     | 10~9月    | 7月末     | 当月分      |         |           |       |
| 水     | 殺虫剤      | 16,119  | 13,761   | 13,555  | 3,292    | 14,360  | 12,641   | 14,545  | 5,243     | 115.1 |
|       | 殺菌剤      | 9,813   | 8,804    | 8,930   | 1,798    | 12,275  | 11,248   | 11,443  | 1,960     | 101.7 |
|       | 殺菌殺菌剤    | 18,036  | 16,813   | 16,003  | 1,941    | 31,404  | 30,068   | 29,867  | 2,872     | 99.3  |
| 稲     | 除草剤      | 31,950  | 30,955   | 29,989  | 664      | 61,638  | 60,374   | 62,454  | 900       | 103.4 |
|       | 小計       | 75,918  | 70,333   | 68,476  | 7,694    | 119,677 | 114,331  | 118,309 | 10,975    | 103.5 |
| 果     | 殺虫剤      | 9,476   | 8,992    | 8,218   | 242      | 23,883  | 21,506   | 20,045  | 1,027     | 93.2  |
|       | 殺菌剤      | 7,267   | 6,827    | 6,183   | 210      | 19,969  | 18,469   | 17,141  | 652       | 92.8  |
|       | 殺菌殺菌剤    | 37      | 34       | 255     | 17       | 45      | 40       | 251     | 17        | 627.5 |
| 樹     | 除草剤      | 3,925   | 3,615    | 3,050   | 195      | 9,936   | 9,219    | 7,968   | 495       | 86.4  |
|       | 小計       | 20,705  | 19,468   | 17,705  | 664      | 53,833  | 49,235   | 45,405  | 2,190     | 92.2  |
| 野菜・畑作 | 殺虫剤      | 47,521  | 40,014   | 37,962  | 3,453    | 56,172  | 47,602   | 47,236  | 3,760     | 99.2  |
|       | 殺菌剤      | 25,262  | 20,470   | 19,250  | 1,739    | 38,534  | 33,366   | 33,596  | 2,174     | 100.7 |
|       | 殺菌殺菌剤    | 2,238   | 1,939    | 2,321   | 236      | 1,862   | 1,642    | 1,910   | 184       | 116.3 |
|       | 除草剤      | 12,255  | 9,871    | 8,982   | 560      | 21,395  | 18,935   | 17,143  | 887       | 90.5  |
|       | 小計       | 87,276  | 72,294   | 68,514  | 5,988    | 117,963 | 101,546  | 99,884  | 7,005     | 98.4  |
| その他   | 殺虫剤      | 3,314   | 3,010    | 2,472   | 151      | 6,036   | 5,330    | 5,241   | 360       | 98.3  |
|       | 殺菌剤      | 923     | 724      | 692     | 82       | 5,305   | 3,908    | 3,742   | 539       | 95.8  |
|       | 殺菌殺菌剤    | 1,732   | 1,523    | 1,483   | 158      | 797     | 693      | 934     | 105       | 134.8 |
|       | 除草剤      | 11,205  | 9,673    | 8,327   | 864      | 22,488  | 19,062   | 17,955  | 1,020     | 94.2  |
|       | 小計       | 17,174  | 14,929   | 12,974  | 1,256    | 34,626  | 28,993   | 27,871  | 2,024     | 96.1  |
| 中     | 殺虫剤      | 76,430  | 65,776   | 62,206  | 7,139    | 100,451 | 87,079   | 87,066  | 10,390    | 100.0 |
|       | 殺菌剤      | 43,265  | 36,824   | 35,054  | 3,829    | 76,083  | 66,991   | 65,922  | 5,325     | 98.4  |
|       | 殺菌殺菌剤    | 22,043  | 20,309   | 20,062  | 2,352    | 34,108  | 32,443   | 32,961  | 3,178     | 101.6 |
|       | 除草剤      | 59,335  | 54,114   | 50,348  | 2,282    | 115,457 | 107,590  | 105,519 | 3,302     | 98.1  |
|       | 小計       | 201,073 | 177,023  | 167,670 | 15,602   | 326,099 | 294,105  | 291,468 | 22,195    | 99.1  |
| 分類ナシ  | 植物調整剤    | 1,865   | 1,811    | 1,867   | 282      | 6,877   | 6,411    | 6,459   | 463       | 100.7 |
|       | 殺菌剤      | 27      | 25       | 26      | 0        | 29      | 26       | 32      | 0         | 123.1 |
|       | 補助剤      | 3,727   | 3,307    | 3,230   | 263      | 3,067   | 2,627    | 2,661   | 250       | 101.3 |
|       | その他      | 45      | 40       | 42      | 2        | 1,349   | 1,285    | 888     | 22        | 69.1  |
|       | 小計       | 5,664   | 5,184    | 5,166   | 547      | 11,322  | 10,349   | 10,040  | 734       | 97.0  |
| 合計    | 合計       | 206,737 | 182,207  | 172,836 | 16,149   | 337,421 | 304,454  | 301,508 | 22,929    | 99.0  |

\*その他:非農耕地・林野・芝・ゴルフ場・家庭園芸 分類ナシ:使用分野の分類をしないもの 分類ナシのその他:生物農薬等  
\*金額は各農薬を代表する規格単価を用いて算出したものです。原則として10、11月は前年度代表規格単価を、12月以降は当年度代表規格単価を用いて算出しています。

## 第73回 植物防疫研修会修了者名簿

平成22年9月27日～10月1日

| 番号 | 氏名     | 県   | 会社名              | 備考 |
|----|--------|-----|------------------|----|
| 1  | 倉根 圭大  | 北海道 | (株)日の丸産業社        |    |
| 2  | 福嶋 彬   | 北海道 | (株)日の丸産業社        |    |
| 3  | 櫻澤 朋大  | 北海道 | (株)サングリソ太陽園      |    |
| 4  | 高田 朝之  | 北海道 | (株)サングリソ太陽園      |    |
| 5  | 福田 圭祐  | 北海道 | (株)サングリソ太陽園      |    |
| 6  | 高倉 三州  | 北海道 | 横浜植木(株)北海道支店     |    |
| 7  | 伊藤 和幸  | 青森  | (株)コハタ東北営業所      |    |
| 8  | 松沢 保   | 山形  | 宮内硫黄合剂(株)        |    |
| 9  | 浦山 武将  | 山形  | 小泉商事(株)          |    |
| 10 | 吉川 雅人  | 茨城  | 岩淵農薬(株)          |    |
| 11 | 福田 純平  | 山梨  | (株)アセラ           |    |
| 12 | 小宮山 友孝 | 長野  | 相馬商事(株)          |    |
| 13 | 阿部 直人  | 新潟  | (株)バイタルグリーン      |    |
| 14 | 高畑 義広  | 富山  | 吉本商事(株)          |    |
| 15 | 桶村 聡   | 石川  | 東海物産(株)北陸支店      |    |
| 16 | 橋詰 翔太  | 福井  | (株)上田五兵衛商店       |    |
| 17 | 五反田 健司 | 岐阜  | (株)山正            |    |
| 18 | 村上 浩二  | 滋賀  | (株)高岡屋           |    |
| 19 | 田中 正則  | 奈良  | 阿古薬品(株)          |    |
| 20 | 阿古 哲史  | 奈良  | 阿古薬品(株)          |    |
| 21 | 土井 康雄  | 和歌山 | (株)トコリ           |    |
| 22 | 杉本 泰   | 和歌山 | (株)トコリ           |    |
| 23 | 小澤 浩之  | 鳥取  | (株)ランドサイエンス      |    |
| 24 | 東内 敬昌  | 岡山  | 山陽薬品(株)          |    |
| 25 | 田中 良幸  | 広島  | 大信産業(株)          |    |
| 26 | 岡田 裕一  | 広島  | 三笠産業(株)広島営業所     |    |
| 27 | 馬場 辰彦  | 熊本  | (株)温仙堂           |    |
| 28 | 瀬戸 利之  | 宮崎  | (株)ベルデ九州         |    |
| 29 | 原田 力   | 鹿児島 | グリーンテック(株)鹿児島営業所 |    |

### ホトトギス（杜鵑草、学名：*Tricyrtis hirta*）

分類：ユリ科ホトトギス属、別名：時鳥草、杜鵑草、鶏脚草、性状：耐寒性多年草

花期：夏から晩秋、草丈：30～100センチ、花色：主に紫紅色、まれに桃、赤、白、橙、黄、分布：主に関東から西の太平洋側

”ホトトギス”と聞けば小鳥を思い浮かべる人が多いとおもいますが、今回は植物のホトトギスと呼ばれる多年生草本植物である。この名前は花びらにある紫色の斑紋がホトトギス（小鳥）の胸の斑紋と似ていることから付けられたとされている。

ホトトギス（小鳥）のは横縞模様であるが、野草の斑紋には横縞模様から大小の斑点まで様々なものがある。ホトトギス属植物は19種知られており、いずれも東アジアに生育している。日本には12種分布しているが、この内の10種は日本だけに生育する日本固有種である。

茶道では茶花として用いられる。



○英国キューガーデン内にある枯山水と「勅使門」、1910年の日英博覧会

に出品されたもので、京都の西本願寺唐門を縮小したレプリカとのこと。門の脇にホトトギスが植え込まれている。（2010.9.26. M）

（雑談） 全農薬の事務所には新潟県関係者が多い、新潟県のお国自慢はお米の「コシヒカリ」であるが、今年はずっと様子が違う。新米がおいしくないというのだ。夏の熱波が一因との説もあるが、特に新潟県の1等米比率は思わしくなく、味にも影響があるという。特にコシヒカリBLになってからは、なおさらとの評判もある。

いもち病に抵抗性を持つように改良されたコシヒカリを親とする品種群「コシヒカリBL」とは、いもち病抵抗性系統（Blast resistance Lines、プラスト・レジスタンス・ラインズ）の略で、コシヒカリに、いもち病の抵抗性遺伝子を連続戻し交配で導入することによって育成されたものである。連続戻し交配は、交配のみによる従来育種で、遺伝子組み換えはしていない。コシヒカリBLは、品種登録上コシヒカリとは別の品種である。病気に対する遺伝子などが異なるので、コシヒカリと性質が異なり同一品種として登録できない。コシヒカリBLには多品種あり、現在12品種が登録済みである。（M）